

理科 第4学年 自然のなかの水のすがた 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：既習の内容や生活経験を根拠に、「置いておいた水が減ったり、冷たい容器に水滴が付いたりするのはなぜだろうか」について予想を立て、調べた事実と関係付けて表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(4)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：同じ容器の水に覆いをしたものとししないものを用意し、最初の水面に印を付けて変化を観察する。冷たい容器の外側は初めに乾かしておき、水滴の付く場所を記録して中の水が漏れたのかを検討する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(4)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：水は消えたという説明には、覆いの内側の水滴も調べるよう促す。容器の外の水滴は中からしみ出たと考えられる場合、容器の材質や覆いの有無を確かめる。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(4)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。冷えた容器の外側の水滴を調べる活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：冷却に使う水や氷は飲食と分けて扱う。床の水滴を拭き、観察器具を日常の食器と混ぜない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(4)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：同じ容器の水に覆いをしたものとししないものを用意し、最初の水面に印を付けて変化を観察する。冷たい容器の外側は初めに乾かしておき、水滴の付く場所を記録して中の水が漏れたのかを検討する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全6時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「置いておいた水が減ったり、冷たい容器に水滴が付いたりするのはなぜだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や消書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「置いておいた水が減ったり、冷たい容器に水滴が付いたりするのはなぜだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。蒸発と結露を身近な例で説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

